



歩く青島

# ぶらり街区

vol.15 漫歩街頭

# 膠南 琅琊台を歩く

膠南 琅琊台

青島海天国际旅行社 日本部  
青島市香港西路48号 海天大酒店新館2F  
☎83879473  
E-mail: hitsj@hai-tian-hotel.com  
URL: http://www.hotqd.com

## 琅琊台

「琅琊台」は、青島市西南の衛星都市「膠南市」のさらに西南26キロの海岸にある名勝地です。琅琊台の起源は古く、約2200年前にまで遡ります。中国史上初の国土平定を成し遂げた秦の始皇帝は国土巡幸を行い、平定から2年後となる紀元前219年、琅琊山に登り、その山麓に砦を築きました。それが琅琊台で、始皇帝は生涯五度の巡幸のうち、三度までもこの地を訪れています。琅琊台は春秋戦国時代から前漢の時代ごろまで、度々歴史の舞台にも登場しますが、中でも決して忘れてはならないのは、始皇帝に仕えた「徐福」の故事でしょう。

現在の学説では徐福は実在の人物とされています。当時始皇帝は不老不死の靈薬を求めて国内各地を訪ね回り、徐郷県(現山東省龍口市)で除福と出会い、はるか東方の海上「三神山」に伝わる不老不死の秘薬を持ち帰るよう命じました。徐福は三千人もの子どもとともに東方へと出航、その出航の地がここ琅琊台だと伝えられています。「三神山」とは当時の日本であると言われ、徐福にまつわる伝説や逸話は、小泊(青森)、八丈島(東京)、丹後伊根(京都)、宮島(広島県)、熊野新宮(和歌山県)、延岡(宮崎)など、日本各地に今でも多く残されています。また除福の航海は中国の大規模な探検航海の先駆ともいえるべき出来事であり、青島が航海文化の発祥地とされる理由ともなった故事としても重要です。

琅琊台は、茅台(マオタイ)酒と並んで有名な白酒「琅琊台酒」の産地としても知られ、中国でその名を知らぬ人のいない場所ですが、現在は公園として整備され、史料館などが建っています。公園からはるか渤海を眺め、徐福の故事に思いを馳せてみる……、悠久の歴史ロマンを感じるにはもってこいの観光地と言えるのではないのでしょうか。

### 除福・日中国際シンポジウム

日中両国でそれぞれ研究が進む「徐福」についての国際シンポジウムが、来る10月14日(土)に、徐福が日本へ旅立ったとされる琅琊台のある膠南市で開催されます。シンポジウムの詳細は以下の通り。興味のある方はぜひ参加してみてください。

日時：2006年10月14日(土) 午前中

会場：膠南市・市政府関連会場(詳細現在調整中)

- 内容：①日中の徐福についての研究者(各1名)による講演  
②日中で除福伝説が伝わる地域の郷土史家(計4名)による講演  
③参加者による質疑応答 ④懇親会(最大400名)

参加協力団体：イオン1%クラブ、イオン(株)、佐賀県、福岡県、下関市、和歌山県、各地域の研究団体、青島市政府、青島市文化局、膠南市、中国海洋大学など  
その他関連行事：10/1~10/15の日程でJUSCO東部店で徐福に関する写真展を実施(展示場所：JUSCO東部店モール中央2F)

お問合せ/参加申込：青島永旺東泰商業有限公司(JUSCO)

担当：白濱(E-mail:kshi77qj@public.qd.sd.cn)まで。

### 琅琊台風景区

場所：膠南市琅琊鎮  
電話：0532-84119665  
入場料：大人50元  
駐車場料金(1台)：大型車15元、中型車10元、普通車5元  
営業時間：8:00~18:30(年中無休)  
アクセス：  
・バス…膠南市バスターミナルから「琅琊台」行観光バスに乗車。所要時間1時間程度(始発6:00/終発16:00/30分に1本)  
・レンタカー…青島市内から2時間半。6~7人乗ワゴン(1台)で1日800元程度(入場料含まず)

【琅琊台風景区】地点：膠南市琅琊鎮 / 電話：0532-84119685 / 門票：50元/人 / 停車費：大型15元/輛、中型10元/輛、小型5元/輛 / 營業時間：8:00-18:30(年中無休) / 交通方法：公交车-从膠南市汽车站坐到琅琊台的旅游公交车需要大约1小时(头班6:00/末班16:30 / 每30分钟出发)。

「琅琊台」は距離青島市西南周辺城市膠南市の西南26公里海岸の名勝地。琅琊台の起源歴史悠久、可以追溯到大约2200年前中国历史上最初完成国土平定的秦始皇举行国土巡视的时候。他从平定开始2年后即公元前219年登上琅琊山，建筑了山顶的平台，这就是琅琊台。在秦始皇一生五次巡视中，有三次拜访此处。琅琊台从春秋战国时期开始到西汉时期，多次登上历史舞台，其中最让人难忘的是为秦始皇效劳的徐福的故事。现代学说证明徐福是实际存在的人物。当时秦始皇在全国范围内寻找长生不老的灵药，在徐乡县遇到徐福，便命令他去遥远的东方的海上「三神山」把传说中的长生不老药带回。于是徐福带领三千童男童女向东方起航，相传起航的地点即琅琊台。传说三神山就是当时的日本。关于徐福的传说和故事，在小泊(青森县)、八丈岛(东京都)、丹后伊根(京都府)、宫岛(广岛县)、熊野新宫(和歌山县)、延冈(宫崎县)等日本各地至今还广为流传。而且徐福的航海自然是中国大规模探索航海的先驱者，青島之所以成为航海文化的发祥地，这个故事起着重要的作用。在中国众所周知，琅琊台是作为与茅台酒齐名的白酒「琅琊台酒」产地，现在公园正在准备建立史料馆等。从公园向遥远的渤海眺望，思绪又飞向了徐福的故事。有感于悠久的历史故事，难道不是称为令人怀念的观光地吗。【「徐福」中日国际讨论会】关于在中日两个国家里研究的「徐福」故事的国际讨论会今年10月举办在膠南市(膠南是徐福向日本坐船出发的地方)。对这个讨论会感兴趣的人可以参加。日期：2006年10/14(上午) / 地点：有关膠南市市政府的设施(现在调整中) / 内容：演讲(中日两个国家的学者(每1位) / 在有徐福故事的地区研究徐福的乡土史学者(共8位) / 答辞会 / 联谊会) / 协助团体：永旺1%俱乐部、日本永旺集团、佐贺县、福岡县、下关市、和歌山县、各地域的研究团体、青島市政府、青島市文化局、膠南市、中国海洋大学 / 联系地点：青島永旺东泰商业有限公司(佳世客)白滨先生

